

腎臓内科

● スタッフ（2020年10月1日現在）

診療科長 菅野 義彦
 医局長 宮岡 良卓
 病棟医長 知名 理絵子
 外来医長 長井 美穂

医師数 常勤 15名
 非常勤 3名

● 診療科の特徴

腎疾患は末期まで自覚症状に乏しく、健康診断で検尿異常があっても専門医を受診する患者は少ない。そのため専門医の対応が手遅れとなり腎不全となる患者が多く、人工透析を必要としている患者は全国で32万人となった。ここ10年間における腎疾患の診療レベルは向上し、慢性腎臓病（CKD）を管理する地域ネットワークも機能しつつある。加齢とともに腎機能が低下することも次第に認知されてきたため、健康診断での異常値、かかりつけ医における検査異常を早期から対象疾患として、2人主治医で管理する方針を立てるのが腎臓内科の役割である。また他の疾患の治療で受診した患者の腎機能を評価し、腎保護を図る支援を行う。

● 診療体制と実績

1) 外来診療体制と実績

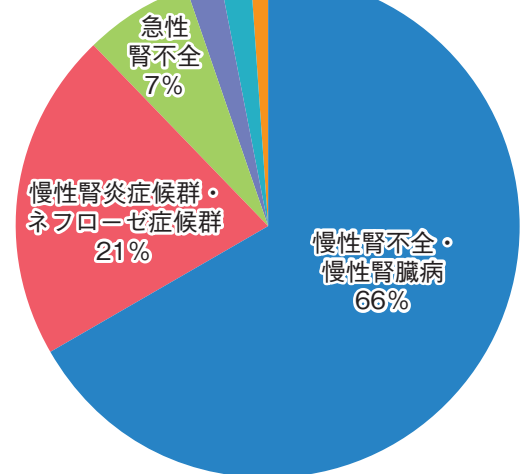
毎日の外来は腎臓専門医が2名に加え、管理栄養士のブースを併設し生活習慣病一般を診療対象としている。慢性腎不全の管理に加えて慢性糸球体腎炎やネフローゼ症候群、電解質異常の管理などを中心に診療している。

2) 入院診療体制と実績

入院患者は12B病棟の病床を中心に2チームで診療にあたり、他科からの腎機能障害、電解質異常などの診療依頼にも応対している。年間100件近くの慢性透析導入を行っており、都内の大学病院でも有数の規模となりつつある。

2020年度 入院患者疾患内訳

電解質・内分泌性疾患 2%
 尿細管間質性疾患 2%
 その他 1%



「慢性糸球体腎炎・ネフローゼ症候群、急性腎不全」は腎生検患者を含む
 「慢性腎不全、慢性腎臓病」は血液透析患者、腹膜透析患者を含む